

夢 塾 だ よ り

～ チャーコと私 ～ (第4号)

平成 29 年 10 月 17 日



それは、4年前の6月のこと。Hさんから、知り合いが飼っている琉球犬に子供が生まれ、大切に育ててくれるなら譲ってもいいという電話がはいった。早速、彼とそのお宅にお邪魔させてもらい、ご対面。茶色のぬいぐるみをまとったような愛らしい子供(子犬)たちが3～4匹はしゃいでいた。「普通は雄を譲る

のですが與那覇さんは、良さそうな人だから、雌でもいいですよ」私はしつぽが巻き上がった茶色の雌に目が走った。その日の夕方からチャーコは我が家にいた。

チャーコはしつけられることもないまま、いつの間にか大人になった。朝、寝室の窓の開く軋み音で、最初の雄叫びを上げる。(雌だけど雄叫び) 仕事から帰ってきて、車のエンジン音を切る音に反応して、雄叫び。私の帰りを誰よりも一番に間髪入れず、喜んで迎えてくれる。散歩の気配を見逃さず、着替えの衣擦れの音で察知する。散歩の前には激しすぎる甲高い声を何度も張り上げる。一番の近所迷惑。近所の人には優しい、誰も文句を言わない。ただ、仕事に出かける時、「行ってきます。チャーコ泣くなよ」の声は無視。ちらっと見ただけで、目をそらし横を向く。

そんなチャーコは、これまでにハブを3匹退治した。ただ、3度目のハブには首と耳をかまれ、重体をおった。2メートル近いハブだった。首回りがソフトボールの大きさに腫れたが命を取り留めた。昨年からは、ハブの侵入を食い止めようと柵を巡らしている。その柵は近所の雄犬の侵入も防いでいる。大人になったチャーコにしかるべき方を見つけて、二世を誕生させたい。

黒い雄ヤギはクーロン。白い雌ヤギはルーシー。その子はルーコ。ルーコの子はチャッピー。私の家で飼われたヤギたち。それから、飼っていた白い雄猫、ミーヤンは1年ほどで家出してまだ戻らない。もう5年も戻らない。

「ミーヤン、元気でやってるかい」